かめのりコミュニティ
THE KAMENORI COMMUNITY

公益財団法人 かめのり財団は
日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を通じて
未来にわたって各国との友好関係と
相互理解を促進するとともに その架け橋となる
グローバル・リーダーの育成を目的に
事業を行っています

今号の内容

大学院留学アジア奨学生
2022 年度証書授与式
新奨学生の紹介
修了生・奨学生選考委員・OBOGからのことば
大学院留学アジア奨学生 交流会 in 金沢
ベトナムで活動する日本NGOの
人材育成等に関する調査
かめのりカレッジ2022

No.40
JUL.2022

公益財団法人 かめのり財団 The Kamenori Foundation

大学院留学アジア奨学生
2022年度証書授与式

今年度採用の奨学生が決定し、2022 年 4 月 2 日(土)にアルカディア市ヶ谷にて新奨学生を迎える証書授与式が行われました。

今年は 3 年ぶりに、新奨学生や現役奨学生の他、財団役員、奨学生選考委員、そして奨学生 OBOG が会場に集まり、対面での証書授与式が行われました。新たに加わった奨学生 2 名を喜びをもって迎えるとともに、専門を活かした職に就き社会人としての生活が始まる修了生 2 名の門出を祝いました。久しぶりに円卓を囲んでの懇談会では、選考委員や OBOG から奨学生へ、困難が伴う研究生活を送るうえでの心強いアドバイスや励ましの言葉がかけられ、さらにはオンライン参加者とも活発な交流の時間を持つなど、盛況のうちに終了しました。

大学院留学アジア奨学生　新たに２名が奨学生の仲間入り

新奨学生の紹介

郭 凱琳　Kok Hoi Lam
カク カイリン
マカオ
関西学院大学大学院 経営戦略研究科
経営戦略専攻 博士前期課程 在籍

日本に住んで６年が経ち、今年、関西学院大学国際経営コースに進学しました。私の研究テーマは女性の経済エンパワーメントです。

例えば、中国におけるジェンダー不平等や女性の地位の低さは極めて重大な問題であると感じています。そこで、自身の学士論文では女性経済に着目し、その中でも主に女性によるモバイルゲームの消費について言及しました。現在中国ではモバイルゲームにおける女性の消費額が伸びており、女性市場は拡大しています。したがって、女性による消費も無視できないということを論文に述べました。今後の課題は研究の視野を広げ、世界の女性市場について深く研究することです。そして、最終的な研究目標は市場の経営方針の調査を分析し、ジェンダーバランスの取れた市場を実現することです。

この度は、かめのり財団の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。これからは、かめのり財団の奨学生として、人生に必要となる「異文化」や「社会」のことを多角的に見ていきたいと思っています。現在も様々な地域で争いが絶えません。様々な歴史的背景や事情がありますが、他人の気持ちや文化を理解することができれば、誤解や問題も少なくなると私は考えます。また、人と人との関わり合いが薄れているようにも思えます。ですので、私の夢は日本で学んだことを活用し、人と人のつながりを結ぶような努力を積み重ねていくことです。

色々な人がつながることで、お互いの理解が深まり、それこそが真の国際化ではないでしょうか。今の私ではまだ経験も知識も足りませんが、今回奨学生に選ばれたことで少し夢に近づけた気がします。今こそがスタートラインであると考えています。

Ho Wai Yip
ホウ ワイ イップ
シンガポール
立教大学大学院 異文化コミュニケーション研究科
異文化コミュニケーション専攻 博士前期課程 在籍

グローバル化した現代社会において、外国語教育は公立学校の必修科目として推奨される一般的な科目になりつつあります。日本の学校では、グローバル競争社会を生き抜くための必須条件として、外国語教育を低学年のうちから推進し、外国語科目の総合的な成績向上を目指しています。しかし、新しいカリキュラムに適応するために行われた変更の結果を理解することは、その変更がどのような結果をもたらし、それがどのような他の結果を引き起こす可能性があるかという点で重要です。さらに、インプットを増やしたからといって必ずしも成績が上がるわけではなく、現在の指導方法の効果も考慮する必要があります。

私は異文化コミュニケーションを専攻しており、「学習者アイデンティティの形成に対する教師の投資」を研究テーマとしています。ここでの「投資」とは、教師が学習者を教育するために用いる方法やアプローチ、そして、教室にどのような雰囲気を作り出しているのかということです。この研究を通して学習者たちの学習意欲を高める教授法を見つけて、その上、学んだ言語とその言語のコミュニティにも友好的な態度を持つようにしたいと思います。

言語はコミュニケーションのための道具であると同時に、異文化を理解するための媒体としても機能します。学習する過程で、私たちはその対象への理解を深め、独自の認識を形成していきます。そこで、異文化への理解を深め、個人がこれまで持っていたバイアスを排除することで、相手を傷つけるような誤解を減らすために、異文化へのアプローチを行うことが必要なのです。

今回、かめのり財団の奨学生に選んでいただき、心より感謝しております。私は、かめのりファミリーの一員になれて、とても幸運だと思いますし、嬉しく思います。かめのり財団の目標である、異なる文化間のつながりを築き、その習慣を理解することは、私たちの多くが欠けている資質であり、取り組むべきものであると考えます。私は人生の大半を海外で過ごしていますが、異文化を尊重することの大切さ、そしてそれによって世界を見る視点がどう変わるかを実感しています。

現役奨学生の皆さんと証書授与式でお会いできたことを嬉しく思い、今後、より良い関係を築いていきたいと思います。これから、かめのり財団の奨学生として、また、言語教育を研究している一員として、互いの文化を理解できる社会づくりに貢献したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

大学院留学アジア奨学生　交流会 in 金沢

2022年３月に新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置の終了を受け、急遽、日本の地方を体験する交流会を2022年３月26日、27日に金沢にて行いました。

金沢城の菱櫓の前で

「金沢で深まった国際交流」

文：チッターラーラック・チャニカー（お茶の水女子大学）

３月26日～27日の１泊２日、金沢での留学生交流会が行われました。今回はかめのり財団の西田先生、谷本さん、当時現役奨学生の苗さん、ドさんと私というメンバーで金沢に行ってきました。久々の対面交流のため、行きの新幹線の中で苗さんと研究や就職、タイドラマなどの様々な話題について話しをし、出発時点から大変盛り上がりました。しかし、名古屋から向かっているドさんの場合は、強風の影響を受け、途中で電車が止まっていたため、体験の企画には参加できず、夕方ごろ金沢で合流しました。

１日目は、金沢独自の文化を学ぶ機会をいただきました。金沢には以前も訪れたことがあり、今回は３回目です。しかし、加賀友禅体験や箔貼り体験は今回が初めてでした。加賀友禅体験では、ひゃくまんさん柄の巾着袋に色を塗ってみると、加賀友禅が意外と難しいという気持ちを皆さんと共有することになりました。巾着袋は今も小物入れ用として愛用しています。また、箔貼り体験では、丸皿に金箔を貼る体験ですが、金沢のランドマークとして知られる鼓門柄入りの皿を選び、金沢での留学生交流会の記念品として持って帰りました。金沢文化体験を通して、加賀友禅にも箔貼りにも高い技術が求められると感じました。

１日目の夕食では、５人のメンバーが揃い、本格的に交流することができました。日本、中国、ベトナム、タイの事情、文化、価値観などについて話し合ったことで、相互理解を深めつつ、自分の価値観をアップデートすることができました。

そして２日目は、金沢城・金沢城公園から兼六園まで散歩しました。その後、金沢21世紀美術館にて現代美術作品を鑑賞しました。伝統的なものと現代的なものの両方を満喫できたことで、金沢には過去もまだ生きており、そこに現代が作り出されていると感じました。

金沢の留学生交流会に参加したことで、メンバーの皆さんと貴重な時間を一緒に過ごすことができ、まさにかめのりファミリーの旅行のように感じました。メンバーの皆さんと楽しい話も多少つらい話もでき、かめのりファミリーの絆が深まったと思います。２日間の時間はあっという間に終わってしまいました。これから、またどこかでかめのりファミリーと旅行をしたいと思います。

苦労の末加賀友禅染物作品が完成

「楽しい旅、終わらないご縁」

文：苗　静茹（東京大学）

３月26日と３月27日の２日間、初めて皆さんと一緒に金沢へ旅行に行きました。コロナの影響で昨年は行けなかったのですが、卒業する前に皆さんと一緒に楽しい時間を過ごすことができて、本当に嬉しいです。

１日目は東京から新幹線で向かいました。初めて日本の新幹線に乗ったので、ワクワクしました。移動中にチャニカーさんといろいろお話しできて、知らない間にすでに金沢駅に到着していました。駅でドさんと合流する予定でしたが、ドさんが乗っていた特急列車が途中で止まってしまい、夕方まで駅に到着できませんでした。昼ごはんに美味しい天ぷら丼を食べた後、加賀友禅と金箔貼りを体験しました。始める前は簡単だと思いましたが、実際にやって見ると、そうではありませんでした。加賀友禅できれいにグラデーションの色染めをしたく、頑張って学んだ通りの染め方でやりましたが、完成した作品の色味はサンプルと全然違いました。金箔貼りの時も、可愛くて簡単そうな図案（招き猫）を選んだと思いましたが、図案には細かい部分があったため、思ったより難しかったです。結果的に専門家が作ったものよりたくさんの欠点がある作品となりましたが、私にとっては宝ものです。もし機会があれば、もう一度加賀友禅と金箔貼りを体験したいです。

金箔貼りも難しかった

２日目は金沢城、兼六園及び金沢21世紀美術館に行きました。金沢城で菱櫓（ひしやぐら）を見て、昔の人の知恵に驚嘆しました。建物の材料でも、建造する際に使用した工具でも、機械化した現代で使用しているものより簡単でありながら、雄大

な城を築くことができ、本当に素晴らしいと思います。兼六園で伝統的な日本式庭園を体験し、緑の樹、薄いピンクの梅や澄んだ池に癒されました。美術館でも、芸術家のアイデアに驚きました。日常生活でどこでも見られる素材なのに、アーティストの手にかかれば、普通のものも特別な意味が与えられます。

短い時間でしたが、留学の経験から各国の文化まで皆さんとたくさん話ができて、本当に嬉しかったです。旅行は終わりましたが、皆さんとのご縁は永遠に終わらず、財団から卒業しても、何かの形でかめのりファミリーの一員として、皆さんとのご縁が続いていくと思います。

「2022年３月交流会(金沢)の思い出」

文：ド・ティテゥフーン（名古屋大学）

2022年３月25日(土)・26日(日)に石川県金沢市で財団の交流会に出席した。新型コロナウイルスが発生して以来、対面での交流会も研究報告会等も中止されることになったが、今回は２年ぶりの対面交流会ということで大きな意義を有すると思われる。２日間だけだったが、金沢市の文化体験（1日目：加賀友禅、箔貼り）や観光（２日目：金沢城公園・兼六園、金沢21世紀美術館）など、様々な有意義な活動に参加させて頂いた。

残念なことに、福井県周辺に発生した強風の影響で名古屋・金沢間の交通が止まったため、１日目の活動に出られなかった。もっとも、その夜金沢到着後すぐに美味しいおでんを頂戴し、心も体も温めてくれた。金沢の魅力的なところは、長い伝統文化・歴史をもつだけでなくその「食文化」にもあるだろう。山と海に囲まれた金沢で四季を通じて新鮮な食材が手に入れられるのは誇りらしい。皆様こちらにいらっしゃる機会があれば日本海の恵み（ズワイガニ、甘えび等）や加賀野菜を是非試してください。

今回の交流会でもっとも印象に残ったのは、西田事務局長の元気な様子である(笑)。みんなで金沢城公園・兼六園等を回ったが西田事務局長はいつも先に速く歩いて行き、私たちよりもスタミナがあり積極的であった。「仕事・勉強が忙しくて体を鍛える暇がない」とか「まだ若いからスポーツや運動をしなくても大丈夫だろう」というのは私を含む多くの若者の言い分である。でも、最近になって頭痛や疲れが続いた。そして、睡眠リズム・生活リズムも崩れ、精神的・身体的ストレスも溜まっていた。さすがに、「健康第一」(心もカラダも)を時間が教えてくれた。やはり、これ以上運動することを先延ばしすることはできない。

私は個人事情により今年の４月から休学することになった。自分の決意を後悔しないが、帰国後の不明確なキャリアパス等の理由で不安な気持ちでいっぱいだった。しかし、西田事務局長が相談に乗ってくださったおかげで不安な気持ちやストレスがある程度解消できすっかり気分が晴れ、やる気も出たように思われる。そして、谷本さん、ミョウさん、チャニカーさんからも有益なアドバイスや温かい言葉をたくさん頂いた。やはりこれこそ交流会の意義なのではないだろうかと思った。今後は皆様からの応援に恥じないよう頑張っていきたい。

ドさんが合流して夕食の会

ベトナムで活動する日本NGOの人材育成等に関する調査

東南アジア諸国における人材育成のための支援活動の基盤整備や、その担い手となる人材育成について検討するため、2021年度に「ベトナムで活動している日本NGOの運営の実態と今後の活動に必要な人材育成等に関する委託調査」を実施し、その最終報告会を2022年４月27日にオンラインにて実施しました。登壇者に、調査実施機関の(特非)国際協力NGOセンター(JANIC)の若林秀樹理事と角田和広氏の他、調査協力者である(特非)ブリッジエーシアジャパン(BAJ)事務局長の新石正治氏、(公財)国際開発救援財団(FIDR)支援事業部長の小山直行氏、(一社)シェア・ザ・プラネット代表理事の筒井哲朗氏の３名を迎え、モデレーターをIIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]の川北秀人氏が務めました。

報告会冒頭では、日本の国際協力NGOを主とする日本人・ベトナム人スタッフへのインタビュー調査等の結果が報告され、続けて、「ベトナムで活動するNGOの職員」、「ベトナムで活動する日本の国際協力NGO」そして「ベトナムで活動する人々や団体への協力と参加の在り方」という３つの視点から登壇者間で意見交換を行いました。

今回の調査は、コロナ禍で人的移動ができない状況の中で国際交流・国際協力を今後どう考えるべきか、支援の現地化をするためには人材育成が必要ではないかという問いが出発点でした。この日登壇者から出た「ずっと関わり続ける」という言葉は大変印象的で、かめのり財団が今後どのような助成事業や交流事業を行っていくかを検討していく上で、非常に大きな示唆を得る機会となりました。

大学院留学アジア奨学生

証書授与式では、修了生のスピーチに続き、奨学生選考委員やOBOGの方々から励ましの言葉が贈られました。

修了生からのことば

Chittararak Chanika
チッターラーラック チャニカー
タイ

お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科
比較社会文化学専攻 国際日本学領域 博士後期 在籍中
奨学金支給期間　2019年4月～2022年3月

3年間かめのり財団の奨学生として活躍する機会を与えて下さり、誠にありがとうございました。財団の方々をはじめ、OBOG、奨学生同士の繋がりができ、私にとっては貴重な出会いでした。

博士後期課程における生活について振り返ると、研究する日々において研究が順調に進むこともあれば、できない時も頻繁にあり、それに対するストレスも大きかったです。しかし、「夏の研修交流会」に参加し、奨学生同士で研究の悩みを相談することや、財団の方々との交流ができたことで、居場所をもう一ヶ所見つけたような気がしました。現在もその交流を続けることができ、大変嬉しく思います。様々な方のご支援で博士論文が進み、少しずつ形になってきました。今後は博士後期課程が修了するまで、より一層頑張っていきたいと思います。

いつも温かいご支援をいただき、改めて深く感謝を申し上げます。またお会いできる日まで楽しみにしております。

苗 静茹　Miao Jingru
ミョウ セイユ
中国

東京大学大学院 法学政治学研究科
総合法政専攻 博士前期 修了
奨学金支給期間　2020年4月～2022年3月

まだ卒業したくない思いですが、4月に現役奨学生からOGになりました。この2年間を振り返ると、たくさん優しい方と出会い、経済的な面のみならず、勉強の悩みも、生活の悩みも全部相談し、かめのりファミリーがあるからこそ外国でも居場所があると感じました。OGとして今後も皆様とのご縁を続けられるのが本当に幸せです。

新奨学生のみなさま、奨学生に選ばれ、本当におめでとうございます。かめのりファミリーの一員として心より歓迎いたします。留学生として一人で外国で勉強し、生活するのは決して簡単なことではなく、研究のストレスに耐えられないこともあると思いますが、疲れた時、困っている時は、一人で無理せず、かめのりファミリーに頼っていただければと思います。それは、かめのりでは、我々は単に同期生、先輩や後輩の関係ではなく、お互いに支え合う家族だと思うからです。このご縁は、かめのりからの卒業に伴い消えてしまう関係ではなく、長く続けていく大切な関係です。

最後になりますが、ようこそかめのりファミリーへ。

奨学生選考委員・OBOGからのことば

日本には、過去に悲惨な戦争を起こし、アジア周辺諸国に多大な迷惑をかけた歴史があります。このかめのり財団は、アジアの若い人たちに機会を与えて文化交流を盛んにし、お互いの文化や経済制度、政治システムなどの違いを超えて、相互理解を深めることが大事だという理念の元で作られた団体です。将来への希望を持つ若い人にアジア地域の平和を託したいという、かめのり財団の理想や精神がもっと広がれば、戦争や人種対立などを解決する道筋が見えるのではないか。そう思うほどに、地道な相互文化交流の努力を重ねてきました。今回、マカオとシンガポールから新しい奨学生を迎えました。お二人は孤独ではありません。困ったことがあれば一人で悩まず、かめのり財団に相談することで、心の安らぎをえることができるはずです。そうやってがんばってほしいですし、その先には新しい交流が広がると思っています。

野村 彰男　選考委員長
特定非営利活動法人青少年教育支援フォーラム 理事長

日本は地震や台風の災害に見舞われることが多い国です。戦争は自分の土地や財産を奪いますが、災害によっても奪われていきます。そのため日本では、子どもに奪われないものを与えたいと、教育に力を入れてきました。昔は知識や技術が主でしたが、21世紀になり、思考力、判断力、洞察力、コミュニケーション力などを身に着けなければという考え方が出てきて、教育目標に掲げられています。けれど実際に社会へ出ると、一緒に仕事をしたいと思えるような、信頼性の高さや人間的魅力も必要です。それは教えてもらって得られるものではありません。各々が置かれた現在の状況の中で、人や物、仕事に誠実に向き合い、その時点での自分の最大の力を発揮して取り組むことが、少しずつ人間性を高め、信頼される力を作るのだと思います。そして、それは国境を越えて通じるものだと信じています。

横田 淳子　選考委員
東京外国語大学 名誉教授

よい論文を書くことは難しいです。何度書き直しても、1行も書けない日も多いです。そのような時はPCではなく遠くにある山を見てみて下さい。専門外の書籍を読んでみて下さい。そこに探していた答えがあるかもしれません。皆さんはかめのり財団で他分野の人との交流ができます。この場を有効活用してほしいです。この経験が皆さんの視点を広げ、深めるでしょう。

私が一番好きな言葉は「居場所」です。「物理的にいる場所」の他に、「心理・情緒的に安心できる場所」という意味があるからです。私にとってかめのり財団はまさに「居場所」です。皆さんにとっても、かめのり財団は居場所になれる存在です。ありがたいことに、皆さんはかめのり財団とつながりができました。まだ点線であるこのつながりを、これから実線や太線へと変えていってほしいです。

姜 民護　OBOG代表（2013年度採用）
同志社大学社会学部 助教

かめのりカレッジ2022

2021年12月から2022年４月までの約４ヵ月に渡り、グローバルでの活躍を目指す日本人大学生を対象に「Kamenori College 2022」を実施し、４月の発表及び修了式は３年ぶりとなる対面形式で行いました。

本プログラムは、将来グローバルでの活躍を目指す大学生を対象に、グローバルコミュニケーションに必要なスキルとマインドセットの醸成を目的とし、2019年より実施しているプログラムです。その後コロナ禍による中止やオンラインでの実施を経て、今回の「Kamenori College 2022」を、一部ではありますが３年ぶりに対面形式で実現することができました。

国内在住の日本人大学生及びアジアからの留学生を対象に参加者を募ったところ、全国各地から多数の応募があり、選考の結果23名の学生が参加しました。このプログラムはオンラインと対面のハイブリッド形式で構成されており、2021年12月4日のオリエンテーションとその後３ヵ月間の事前英語プログラムはオンラインで、2022年３月10日～14日のメインプログラムと、４月16日の発表会及び修了式は対面で行う予定でした。ところが、４泊５日の合宿を予定していたメインプログラムは、新型コロナウイルスの感染拡大状況の悪化により、急遽オンラインへ切り替えとなりました。

そのような逆境にも関わらず、プログラムディレクターの山本智巳氏をはじめ多彩な講師陣により、参加者とのインタラクティブなセッションが多数提供されたことで、当初は発言の少なかった参加者たちの間に、徐々に意識の変化が生まれてきました。講師からのアドバイスやグループディスカッションを重ねることで、正しい英語での発話にこだわらず自身の意見を言うようになったり、自分から質問することで相手に関心を示すようになったりと、短期間での急成長が見られました。

２日目と3日目の終わりにはZoom上のブレイクアウトルームで1～2時間ほど自由に話す時間を設けました。もともとのスケジュールには入れていなかったので、この提案には参加しない学生もいるだろうと予想していたところ、両日とも多くの参加者たちが時間ぎりぎりまで残り英語を使ってコミュニケーションをとっていて、大学・学部・国籍の違う学生同士が集う貴重な交流の機会に、みな意欲的だったのが印象に残りました。

本プログラムの企画者、山本智巳講師

発表準備の相談中

発表の様子

ベストチーム賞に選ばれた４名

メインプログラムの終盤では４月の最終成果発表に向けたチーム分けがなされ、参加者たちはチームごとにそれぞれのスケジュールを調整し、何度もオンラインミーティングを重ねて準備をしました。

４月16日の発表及び修了式は、感染症対策を充分に講じた上で、北は新潟から南は福岡まで全国各地の大学生が集まり、4ヵ月越しでやっと会うことができたチームメイトと最後の調整をしてチーム発表に臨みました。参加者は聴衆に訴えかけるように堂々とプレゼンテーションを行い、講師陣からの質問にも臆することなく答える姿は、オリエンテーションや事前英語プログラムを受講している頃の、自分の発言に自信のない姿とは見違えるものとなっていました。日本語を使わず英語のみの発表でこれだけの成長を遂げたのは、単に１ヵ月という十分な準備期間が与えられたからだけではなく、チームワークを通してそれぞれのチームメイトの努力や真剣さが互いに良い影響を与えたからであったと言えるでしょう。このように、講師陣から学びを得るとともに、参加者同士が相乗効果を生み出せたことは本プログラムの大きな成果でした。参加者からも「かめのりカレッジに挑戦したことで、自分が何か大きく変化することができた」、「チームメイトの全てにいいねと言うのではなく、『それもいいけど、こうしたらもっと良くなるかもね』というアドバイスがすごく素敵だと思った」、「今日（4月16日）初めて会ったはずだけど、ここにいると安心できる場所になった」といった感想が聞かれました。

コロナ禍で約２年間止まっていた青少年交流プログラムですが、このかめのりカレッジを足掛かりに、アフターコロナ/ウィズコロナと言われる中で少しずつ再開していきたいと思います。

発行人 ／ 西田 浩子　　編　集 ／ 谷本 知子　　デザイン／イワブチサトシ（BUTI design）　印　刷／株式会社佐伯コミュニケーションズ

日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を支援します！

公益財団法人 かめのり財団　The Kamenori Foundation

〒102－0083　東京都千代田区麹町５－５　ベルヴュー麹町１階

TEL：03-3234-1694　　FAX：03-3234-1603

E-mail：info@kamenori.jp　　URL：https://www.kamenori.jp/